

第86期 事業報告書

平成31年4月1日から
令和2年3月31日まで

「FUKUVI NEXT」をキーワードに、 100年企業を目指し 新たなステージに駆け上がる。

株主、投資家の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに令和2年3月期の事業の概況につきまして、ご報告申し上げます。

代表取締役社長

八木誠一郎



令和2年3月期のフクビ化学は、 どのような一年でしたか？

令和2年3月期の国内景気は、雇用・所得環境の改善が続いたものの、企業収益は人件費などのコスト増等が影響し弱含み傾向にあり、また輸出、生産も引き続き横這い圏で推移するなど回復の動きが鈍る展開となりましたが、個人消費は総じて緩やかに持ち直しており、景気は弱いながらも回復基調が維持されていました。

一方、米中貿易摩擦や中国経済減速の長期化など海外情勢の不透明感が増す中、第4四半期以降、中国を発端とした新型コロナウイルスの感染拡大により、世界的に景気が急速に下振れしてきており、日本でも企業収益、設備投資、個人消費、雇用

情勢など多くの面で重大な影響が懸念されています。今後、流行の終息まで、留意の必要な状況が続くものと予想されます。

住宅業界におきましては、消費税率引き上げに伴う需要減や融資審査の厳格化による貸家の落ち込み幅が大きく、その結果、令和元年度の新設住宅着工戸数は、戸数884千戸(前年比7.3%減)、床面積73,107千㎡(同4.5%減)となりました。

このような環境の下、当社グループでは、第5次中期経営計画「Vision2019 CHALLENGE&CHANGE目指せ100年企業!」(2017年度～2019年度)の最終年度として、下記の3つの基本方針に則り具体的施策を実践してまいりました。

・成長分野への積極展開

エンジニアリングセールス(技術提案型営業)の拡大を引き続き進め、高付加価値型製品の提案活動により従来から推

進んでいる非住宅分野に更に注力、集合住宅や大型案件（一部オリンピック関連施設を含む）への木粉入り樹脂建材・乾式二重床といったシステム建材の販売が伸長しました。

・生産性向上による利益の創造

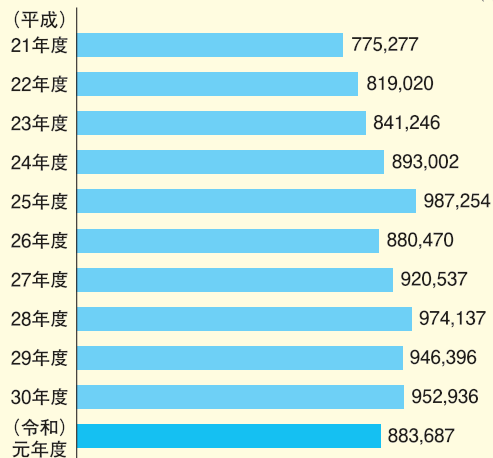
生産性向上による収益の改善を図るため、働き方改革における事務作業（非営業工数）の削減や、昨今の運送費高騰への対策および物流機能強化として加工拠点・在庫拠点の変更・梱包の簡素化を実施する等の取組みを進めました。また業務の平準化やデジタルの活用による作業の合理化、工場再編による生産効率の改善も図ってまいりました。

・挑戦と変革を実現する経営基盤の確立

中期経営計画に基づき整備された新人育成制度や新入格制度がスタートしており、順調に運用されてまいりました。

全国新設住宅着工戸数の推移

(単位:戸数)



(出典:国土交通省)

以上により、当連結会計年度の売上高は412億65百万円と、前期に比べ0.6%の増収となりました。

一方、利益面につきましては、車載用製品の売上減少による固定費負担割合増加や、深刻な人手不足に伴う物流費の高騰などにより、営業利益11億68百万円(前期比33.9%減)、経常利益13億97百万円(同29.4%減)、親会社株主に帰属する当期純利益9億46百万円(同29.8%減)となりました。

当期中にマーケットで評価を受けた製品について教えてください。

昨年10月に発売しました、福井県の伝統工芸品である手すき越前和紙に独自のコーティング技術で耐久性と不燃性を付与し、不燃材料の大臣認定を取得した不燃手すき和紙化粧板「越柅(こしゅう)」は、この加工された和紙と板材の複合成形品であり、熟練した職人でなくても施工が容易な汎用性と意匠性が評価され、2019年度グッドデザイン賞を受賞いたしました。

また、積水化学工業(株)環境・ライフラインカンパニーから事業譲受し昨年1月より販売開始しました高性能断熱材「フェノバード」も売り上げに大きく貢献いたしました。

木粉入り樹脂建材「プラスッド」や、その戸建用エクステリア商品「ソライエデッキ」も引き続きご好評をいただいております。請負工事付きの受注が順調に推移しました。



中期経営計画について教えてください。



本年度より当社グループの新たな中期経営計画「FUKUVI NEXT」(2020年度～2022年度)がスタートしております。新中計の柱にあるのは「100年企業を目指す」こと。そのためにはより激しく加速する市場環境の変化を先取りし、新たな技術の創造と新規事業の拡大に積極的に挑戦する若手社員の活躍がカギとなります。新中計はそれら次世代を担う社員が中心となりまとめあげてくれました。当社が創立100周年を迎える33年後に、フクビの中心となっているのは今の彼らに続く若者たちです。「10年後のありたい姿」への挑戦として、新たな分野への積極展開、収益構造改革、そして社会的価値の創造による持続的な企業価値の向上を目指してまいります。

第6次中期経営計画 (2020年度～2022年度)

FUKUVI NEXT

成長分野への積極展開

- ・グローバルビジネスの更なる展開
- ・新規分野の開拓
- ・新たな技術領域の発掘

収益構造の改革推進による利益の創造

- ・構造改革の実施
- ・バリューチェーンを活かした高収益化
- ・効率化、合理化の推進

挑戦と変革を実現する経営基盤の確立

- ・更なる人材基盤の強靱化
- ・確固たるグループ経営の確立
- ・ESG経営の実践



新型コロナウイルスが世界で猛威をふるう中、これまでの貴社の対策についてお聞かせください。



政府より発令されました緊急事態宣言や厚生労働省の「新型コロナウイルス感染症対策の基本方針」等に基づき、関係お取引先の皆様および当社グループ社員への感染防止のため、対策の強化に努めました。具体的には、福井本社を含む全国の拠点での在宅勤務・シフト制出勤への切り替えの推進、国外出入国の禁止、不要不急の県外への出張・帰省・外出の禁止、お取引先への訪問および来訪の禁止、懇親会開催の禁止ならびに不特定多数の参加する会合への参加禁止、公共交通機関利用通勤の禁止、作業場の分散、製造側・事務側の接触の遮断および部門間の社員の移動の禁止、事業所の共用施設(更衣室・アスレチックジム・食堂・喫煙ルーム)の利用禁止、加えてweb会議システム活用による打ち合わせの開催を促進するなど、3密と接触感染防止対策によるリスク低減を徹底してまいりました。



最後に株主様へのメッセージ、来期の見通しなどについてもお聞かせください。



第87期から新しい中期経営計画が始まっております。新型コロナウイルスの感染拡大による影響で、なかなか先を見通すことができない市場環境ではございますが、計画で掲げた基本方針に則り、フクビグループ一体となって共に困難を乗り越え、新たなステージに駆け上がってまいります。「100年企業」という大きな目標に向かい、この第6次中期経営計画をその足掛かりとし、一歩踏み出したら決して後戻りしない、強い決意で挑んでまいります。

今後も中長期を見据えた計画の着実な実行により、株主や投資家の皆様のご期待に応える企業へと成長を果たす所存ですので、格別のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和元年11月～令和2年5月の主なTOPICS

個人投資家さま向けIR説明会を開催

令和2年
1月30日

毎年恒例の「個人投資家さま向けIR説明会」を、今年も野村證券福井支店にて開催いたしました。

当日は、70名ほどの個人投資家の皆さまにお集まりいただき、初めに八木社長より当社の概要について、続いて柴田取締役より決算概要の説明を行いました。

会場入り口には、越柘やフェノバードなどのサンプルを展示し、多くの投資家さまが実際に手に取ってご覧になり、当社製品に興味を持っていただきました。

今後もこのようなIR説明会を継続して開催し、情報の積極的な開示および投資家さまとの建設的な対話に努めていきます。



「フクビ アリダン施工協力会」の総会を開催

令和2年
2月18日



アリダン施工協力会に入会いただいている防蟻工事店様を対象とした「第20回アリダン施工協力会総会」が、福井県あわら市の「グランディア芳泉」にて開催されました。

総勢約40名の会員の方々にお集まりいただき、優秀工事店様の表彰や講習会、施工品質状況・工事店契約内容改訂や新商品発売、Web申請方法改訂等についての説明などが行われました。

岐阜加工センター新工場が竣工

令和2年
3月16日

岐阜加工センター新工場の竣工式が執り行われました。

自動車のクーラーダクトの生産場所一元化および新規案件獲得を目指した作業スペース拡大を目的としており、竣工式当日には関係者やお取引先など、約40名の方にご出席いただきました。上期には設備を追加導入予定で、作業効率の大幅な向上を見込んでおります。



10年後のありたい姿

暮らしを変える Creators

一歩先をいく「安心」と「驚き」の価値を提供する

- ・新たな分野に積極的に挑戦する。
- ・徹底的に差別化を図り、高収益化に挑戦する。
- ・社会的価値の創造により、持続的な企業価値向上に挑戦する。

第6次中期経営計画（2020年度～2022年度）

一歩先をいく「安心」と「驚き」の価値を提供し続ける企業となるために

FUKUVI NEXT

成長分野への積極展開

- ・グローバルビジネスの更なる展開
- ・新規分野の開拓
- ・新たな技術領域の発掘

収益構造の改革推進による利益の創造

- ・構造改革の実施
- ・バリューチェーンを活かした高収益化
- ・効率化、合理化の推進

挑戦と変革を実現する経営基盤の確立

- ・更なる人材基盤の強靱化
- ・確固たるグループ経営の確立
- ・ESG経営の実践

セグメント別戦略

第6次中期経営計画の基本方針に則り、サステナビリティの観点からフクビが捉える社会課題の解決に向けて、各セグメント戦略のもと、事業の成長とサステナビリティの追求の両立を目指します。

1. 成長分野への積極展開

2. 収益構造の改革推進による利益の創造

3. 挑戦と変革を実現する経営基盤の確立

・ 新たな技術の創造と新規事業の拡大 (M&A を含む) ・ グループシナジーの最大化

建築資材

- 1 米国・ASEAN地域での建材ビジネスの確立
- 2 成長分野（非住宅・リフォーム）での市場占有率の向上
- 3 新たな市場への進出（製品展開）

産業資材

- 1 グローバル市場での事業拡大（グローバルマーケティング強化）
- 2 注力分野（モビリティ分野、インフラなど）での事業拡大
- 3 成長分野への経営資源シフト

- 1 原価低減推進(バリューチェーンを通じた顧客価値の最大化)
- 2 事業ポートフォリオの再構築（成長分野への経営資源のシフト）
- 3 省人化、合理化推進(IoT、FA機器の積極的活用)
- 4 金型技術の更なる向上（新規金型のQCD改善による受注競争力・生産性の向上）

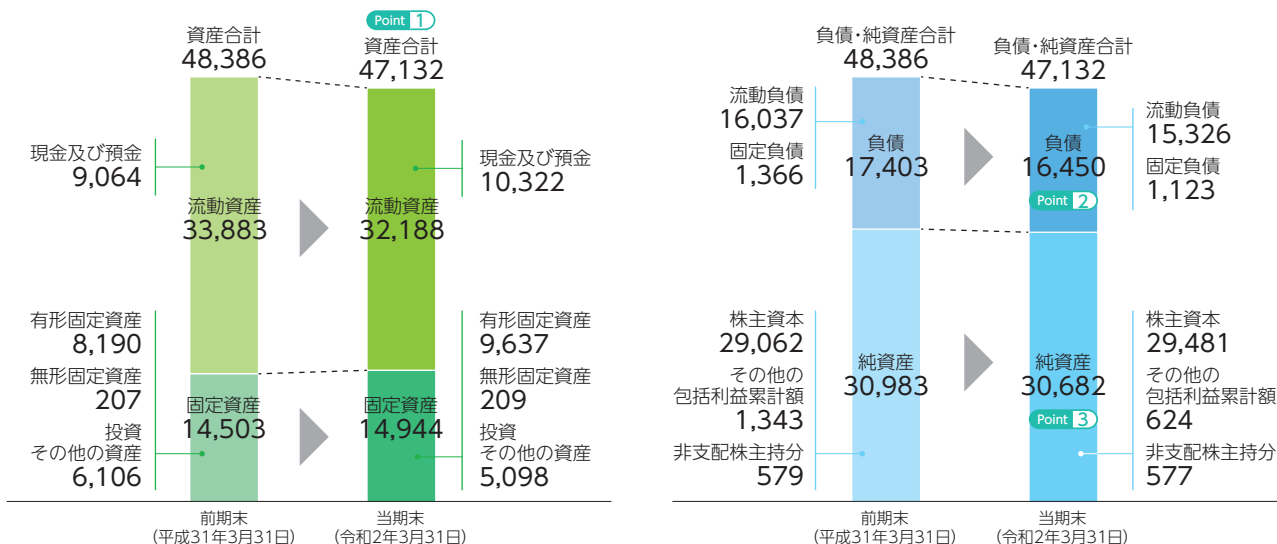
- 1 挑戦を後押しする人材育成、人事制度の構築
- 2 実行スピードの向上を実現する組織体制、推進体制の構築
- 3 10年後を見据えた社会課題の解決に向けた取り組み推進
- 4 ITインフラの最大活用（グループ経営基盤の整備）
- 5 ガバナンス機能の強化（コンプライアンス・リスクマネジメント機能、BCPの強化）

投資方針

「10年後のありたい姿」を実現するために持続可能な成長を果たすべく、第6次中期経営計画の3つの基本方針に則り、最適な経営資源の配分を行ってまいります。

連結財務諸表の概要

[資産の状況] (百万円)



資産の状況

Point 1 総資産(=資産合計)

総資産は、前連結会計年度末に比べ12億54百万円(前期末比2.6%)減少し、471億32百万円となりました。主な増減要因としては、流動資産では、現金及び預金が12億59百万円増加した一方で、受取手形及び売掛金が22億34百万円減少、電子記録債権が7億23百万円減少したことなどにより、16億96百万円(同5.0%)の減少となりました。固定資産では、有形固定資産が14億47百万円増加した一方で、投資その他の資産が10億8百万円減少したことなどにより、4億42百万円(同3.0%)の増加となりました。

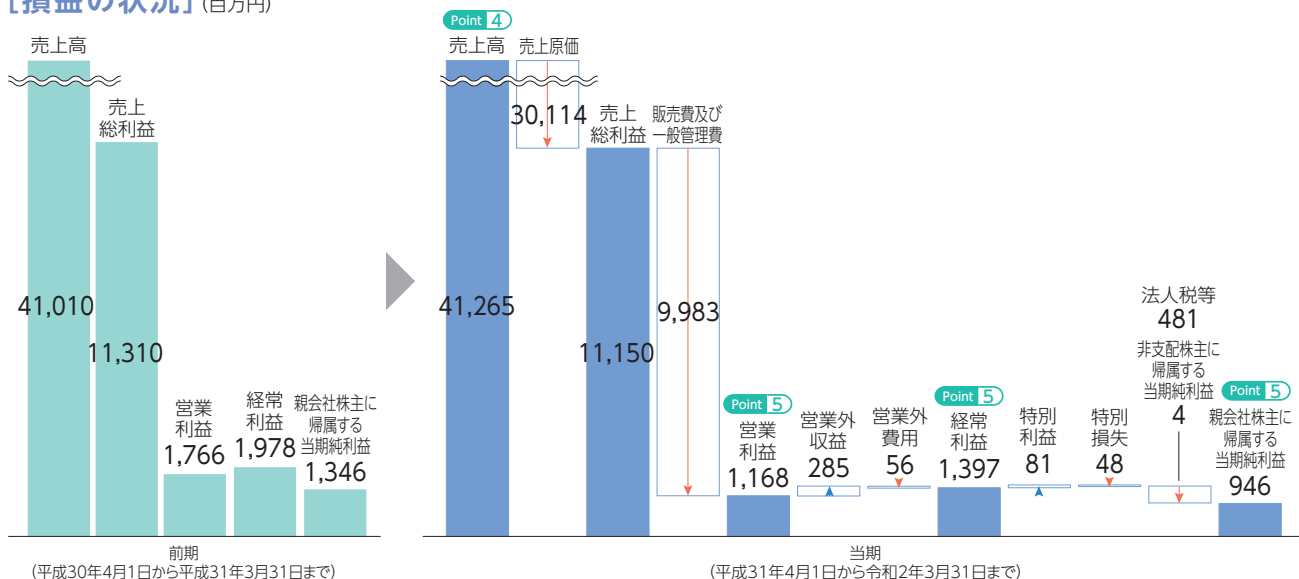
Point 2 負債

負債は、前連結会計年度末に比べ9億53百万円(前期末比5.5%)減少し、164億50百万円となりました。主な増減要因としては、流動負債では、支払手形及び買掛金が3億33百万円減少し、また、未払法人税等が2億73百万円減少したことなどにより、7億10百万円(同4.4%)の減少となりました。固定負債では、繰延税金負債が2億52百万円減少するなど、2億43百万円(同17.8%)の減少となりました。

Point 3 純資産

純資産は、前連結会計年度末に比べ3億1百万円(前期末比1.0%)減少し、306億82百万円となりました。主な増減要因としては、その他有価証券評価差額金が4億59百万円減少し、また、退職給付に係る調整累計額が2億39百万円減少しました。株主資本合計は、利益剰余金が5億86百万円増加した一方で、自己株式の取得等で1億70百万円減少したことなどにより、294億81百万円となりました。この結果、自己資本は301億5百万円となり、自己資本比率は63.9%となりました。

[損益の状況] (百万円)



損益の状況

Point 4 売上高

主力の建築資材事業の売上は、308億20百万円(前期比4.3%増)で、売上高全体の74.7%を占めました。非住宅・リフォーム・組織需要家の3つを重点分野と定めて、拡販活動に取り組みました。

うち外装建材は、53億60百万円(同2.3%減)でした。樹脂製瓦棧は順調に推移しましたが、換気部材、防水部材が伸び悩みました。

内装建材は、127億5百万円(同9.1%増)でした。養生材・樹脂開口枠が順調に推移し、また高性能断熱材フェノパボードの製造販売を昨年1月に開始したことに伴い、売上は大きく伸長しました。

床関連材は、85億68百万円(同1.5%増)でした。床支持具の売上が減少しましたが、非住宅向け販売を積極的に推し進めたことにより、OAフロア材や乾式遮音二重床システム部材が順調に推移しました。

システム建材は、41億87百万円(同5.0%増)でした。ビルダーや非住宅向けへのエンジニアリングセールスが奏功し、請負工事付きの木粉入り樹脂建材の受注が売上増加に寄りました。

産業資材事業の売上は、104億44百万円(同8.8%減)で、売上高全体の25.3%を占めました。販売拡大に取り組んだ結果、住宅設備部材や車輛部材は順調に推移しました。また、精密分野では低反射パネルの技術革新による製品機能の向上と顧客への付加価値の提供に注力しておりますが、米中貿易摩擦や、第4四半期の中国での新型コロナウイルス蔓延に伴う工場操業停止による自動車産業の落ち込みを受け、主軸の車載用製品売上が減少しました。

以上により、当連結会計年度の売上高は412億65百万円と、前期に比べ0.6%の増収となりました。

Point 5 営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益

利益面につきましては、車載用製品の売上減少による固定費負担割合増加や、深刻な人手不足に伴う物流費の高騰などにより、営業利益11億68百万円(前期比33.9%減)、経常利益13億97百万円(同29.4%減)、親会社株主に帰属する当期純利益9億46百万円(同29.8%減)となりました。

会社の概要

会社の概要

(令和2年3月31日現在)

創 立 昭和28年5月25日

資 本 金 21億9,390万円

U R L <https://www.fukuvi.co.jp/>

主要な事業品目

建築資材

外装建材

セミックス(窯業系不燃外装材)、左官定木、エコランパー、換気材、スーパーエアテックス(防風透湿シート)、土台パッキン、エクラート(FRP製外装装飾材)、ウェザータイト(防水部材)、耐震関連部材

内装建材

バスパネル(浴室用パネル)、見切、内装下地材、点検口枠、アルパレージ、樹脂開口枠、養生材、フェノバボード・フクフォーム・フクフォームEco(断熱材)、ケンジュール(人工大理石)、越枠(不燃手すぎ和紙化粧板)

床関連材

クッションフロア、床タイル、フリーフロア、乾式遮音二重床システム、OAフロア(フリーアクセスフロア)、機能束(ブラ束、鋼製束)

システム建材

エアサイクルシステム、リフォジュール(リフォーム天井システム)、アリダン工法(防蟻工法)、ブラスッド(木粉入り樹脂建材)、メルツエンサッシ内窓

産業資材

樹脂サッシ 窓枠、浴室用ドア

産業機器 車両部材、住宅設備部材、機器部材、仮設部材、精密化工品

役員

(令和2年6月18日現在)

代表取締役社長 執行役員 八木 誠一郎

代表取締役副社長 執行役員 采野 進

代表取締役専務 執行役員 大畑 忠

取締役 岩淵 滋 群栄化学工業株式会社社外取締役

取締役 諫山 滋 三井化学株式会社 常勤監査役

取締役 南保 勝 福井県立大学地域経済研究所所長

取締役執行役員 加川 潤一

取締役執行役員 豊嶋 雅子

常勤監査役 川瀬 慎一郎

監査役 玉井 三千雄 あおぞら経営税理士法人 代表社員

監査役 藪原 孝夫 藪原孝夫税理士事務所

顧問

顧問 長瀬 洋 長瀬産業株式会社 代表取締役社長

顧問 森 克則 三井物産プラスチック株式会社 代表取締役社長

顧問 小田 英治

顧問 宮地 正雄

株式の状況 (令和2年3月31日現在)

株式の状況

株式の総数

発行可能株式総数	63,000,000 株
発行済株式の総数 (自己株式363,957株を除く)	20,324,468 株

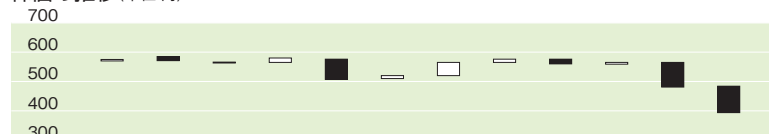
当期末現在の株主数 2,567 名

大株主

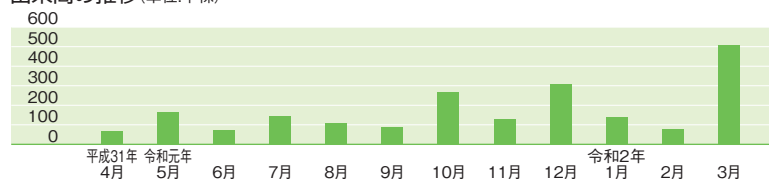
株主名	持株数
株式会社八木熊	2,574,140 株
長瀬産業株式会社	2,464,308
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (三井住友信託銀行再信託分・三井化学株式会社退職給付信託口)	1,855,885
三井物産プラスチック株式会社	983,220
株式会社福井銀行	710,300
昭和興産株式会社	669,573
八木誠一郎	640,703
株式会社北陸銀行	624,900
蝶理株式会社	600,382
八木信二郎	540,581

株価チャート

株価の推移(単位:円)

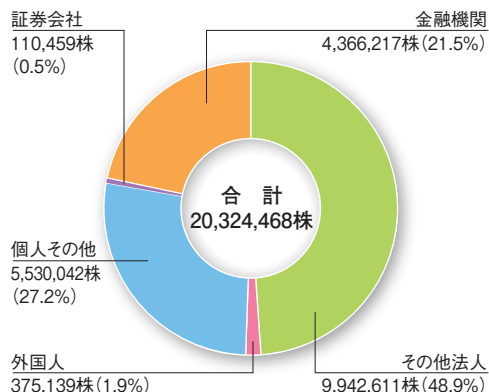


出来高の推移(単位:千株)

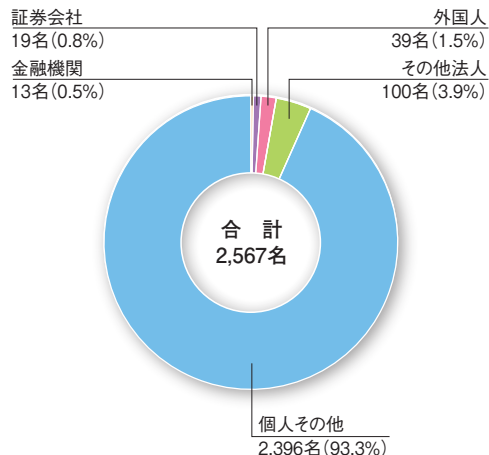


株主分布状況

〈所有数別〉



〈所有者別〉



企業理念

- ・化学に立脚し、新たな価値を創造、提案する。
- ・企業経営を通じて、地域に貢献し、環境共生型社会形成に寄与する。

中長期ビジョン

- ・新たな技術開発と市場創造に絶え間なく挑戦し、快適な社会の実現に貢献する。
- ・一人一人の成長と企業の成長が一体となることで、喜びを実感できるフクビグループを目指す。

株 主 メ モ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月に開催いたします。
基準日	定時株主総会の議決権 3月31日
	期末配当 3月31日
	中間配当 9月30日
	※その他必要がある場合は、あらかじめ公告する一定の日
公告方法	電子公告により行います。 ただし、電子公告によることができないやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
	https://www.fukuvi.co.jp/
上場証券取引所	東京市場第2部・名古屋市場第2部

単元株式数	100株
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人事務取扱場所	大阪府中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先（電話照会先）	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031（フリーダイヤル）

ご注意

未受領の配当金につきましては、三井住友信託銀行全国本支店にてお取扱いいたします。

独自の技術で未来をひらく



この事業報告書は、環境に配慮し、植物油インキを使用しております。

